



関東大震災～救援品 ウイスキー

アメリカ赤十字社から贈られたウイスキー

1923年(大正12年)9月1日午前11時58分、マグニチュード7.9の大地震が関東地方を襲いました。死者約10万人、行方不明者約4万人、重軽傷者約10万人、そして300万人もの避難民を出す未曾有の大災害となりました。

日本赤十字社は、全国から救護員4,466人を動員し、主要駅などに臨時救護所を設けたほか、赤十字病院等に191カ所の救護所を開設しました。殉職者6人を出しながらも、救護した被災者はのべ206万人にのぼります。



東京・芝公園に開設した救護所

この震災に対し、27カ国の赤十字社から救援物資や義援金が寄せられました。

アメリカ赤十字社からの救援物資の中に「ウイスキー」がありました。ボトルの裏側には英語で、「医療用の使用に限定する」と明記されています。



毎年9月1日は「防災の日」、この日を含む一週間を「防災週間」として、防災知識の普及のための講演や展示会、防災訓練、防災功労者の表彰などが全国で実施されます。

